

いわて平泉米だより

令和8年7月号



病虫害対策を徹底し 水稻の出穂に備えましょう

- 今後の水管理は、中干しを行った後、間断かんがいを実施しましょう。ここで一気に深水にしてしまうと酸素欠乏となり、根に障害が発生する恐れがあります。（間断かんがいは、1～2日間かん水を行った後、3～4日間落水を行う水管理のことです。）
- 7月上旬に葉色の濃い部分を中心に、いもち病が発生していないか確認しましょう。病斑が見られた場合は、直ちにブラシン剤を茎葉散布してください。なお、使用した場合は輝米となりますので、注意してください。
- カメムシ対策のため、7月20日～25日までに再度、畦畔の草刈りを行いましょう。出穂間際に草刈りを行った場合、斑点米カメムシが本田に追い込まれてしまい、かえって被害を悪化させる恐れがあります。

詳しい技術情報は、良質米生産技術情報第4号を参考にしてください。

LINE
公式アカウント



JAのLINE公式アカウントにおいて営農情報を発信します。
お友だち追加をお願いします。